

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育ⅢA(0245)	
科目基礎情報							
科目番号	0066		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	産業システム工学科機械システムデザインコース		対象学年	3			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	蝦名 謙一						
到達目標							
授業計画に明示されている運動スキルを習得し、各運動の競技運営と管理ができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		授業計画に明示されている運動スキルを習得し、自主的に各運動の競技運営と管理ができる	授業計画に明示されている運動スキルを習得し、各運動の競技運営と管理ができる		授業計画に明示されている運動スキルを習得し、各運動の競技運営と管理ができていない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 A							
教育方法等							
概要	3年次においては、主としてバレーボールスパイク、水泳、ユニバーサルホッケー、フットサル、バスケットボール基本について理解し、導入においては、十分なストレッチング、コンディショニングを実施し傷害予防とする。主運動では、用具の安全を確認し、実技の展開に入る。						
授業の進め方・方法	終わりに、環境を整え、次回への動機づけにする。各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて自主的、継続的に運動ができる資質や能力を兼ね備えた技術者を育てる。						
注意点	Tシャツ、ジャージの着用、ピアス、ネックレス、指輪等をはずすなど、個人及び集団の安全に配慮し、率先して運動ができるよう留意すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、バスケットボールゲーム				
		2週	バレーボール（オープンスパイク）				
		3週	バレーボール（オープン、クイック攻撃）				
		4週	バレーボール（オープン、クイック攻撃）				
		5週	文部科学省新体力テスト（室内種目）				
		6週	文部科学省新体力テスト（屋外種目）				
		7週	文部科学省新体力テスト（持久走）				
		8週	バレーボール（スキルテストへ向けての練習）				
	2ndQ	9週	バレーボールスキルテスト				
		10週	新体力テストコンピュータ処理作業				
		11週	水泳（200mを目標に泳ぐ）				
		12週	水泳（200mを目標に泳ぐ）				
		13週	水泳（総合練習と泳力評価）				
		14週	ユニホッケー（ルールの理解、基本技術）				
		15週	ユニホッケー（基本技術、ゲーム）				
		16週	達成度評価アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3		
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3		
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3		
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3		
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3		
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3		
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3		

				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	

評価割合				
	新体力テスト	スキルテスト	平素の学習状況等	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	20	40	40	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0